



※今月のみ受注の書目です。注文が重複した場合は、多い方の冊数で進めさせていただきます。

経済書で担当者さま

“金融”^{おきな}の翁邦雄氏が日本の未来に斬り込む!



移民とAIは日本を変えるか



翁邦雄 (元日本銀行金融研究所長、
法政大学大学院政策創造研究科客員教授)[著]

本体予価 2,000 円 四六判仮フランス装 / 224 頁

部数: ★★★★★★★★★★

ISBN978-4-7664-2611-3 C0033

(書影はイメージ)

🔍 ココに注目!

- ・移民とAIは日本社会の救世主となるのか? 破壊者となるのか?
- ・人口ペシミズムへ3つの異論を提示!

高齢化社会の到来は数十年前より議論されてきたが、人口減少が問題視されるようになったのはこの十数年のことであり、その対処策を統計数字や理論的成果に基づいた解説書はまだ少ない。本書は、金融のみならず、今や現代経済分析の第一人者となった翁氏が、喫緊のテーマを人口減少下での労働環境の変化と捉え、特に昨今話題を集める移民とAIについて科学的分析を踏まえて考察。著者の日本経済・社会全体を俯瞰する解説書の第一弾。

📖 類書 ジョージ・ボージャス『移民の政治経済学』(白水社)

〈営業部からのおすすめポイント〉

“金融”のスペシャリストとして著名な翁氏が、「日本経済・社会を活性化するには金融政策だけでは限界がある」という考えのもと、専門の枠を越えて人口問題へと斬り込んだ提言の書です。本書の特徴は、高齢化・人口減少を所与のことと認め、そこに悲観したり抵抗するのではなく、「ならばどうするのか」というスタンスをとっている点です。そして、とかく印象論で過度な期待を受けたり危険視をされがちな、移民(外国人労働力)とAIについて、科学的分析をふまえて検証します。当代を代表する執筆者の新境地にぜひご期待ください! (乙子)

🔍 主要目次、著者プロフィール、注文書は裏面に掲載! ぜひご確認ください!

〈主要目次〉

- 第1章 金融政策の限界—プロローグ
- 第2章 人口ペシミズムと将来人口推計の確実性
- 第3章 移民あるいは外国人労働者の経済的影響
- 第4章 移民の社会的影響と欧州の経験
- 第5章 移民の社会的影響—治安と婚姻などからみた日本の現状
- 第6章 事例研究：ベトナムとの関係
- 第7章 AIは労働者を無用にするか
- 第8章 AIと移民の共通点・相違点
- 第9章 移民問題についての今後の課題

〈著者プロフィール〉

1951年生まれ。74年東京大学経済学部卒業、日本銀行入行。83年シカゴ大学でPh.D.取得。筑波大学助教授、日本銀行調査統計局企画調査課長、企画局参事、金融研究所長を歴任ののち2006年退社。その後、中央大学教授、京都大学大学院教授を経て現職。日銀在職中に岩田規久男氏と繰り広げたマネーサプライ論争が大きな話題となる。

著書に、『期待と投機の経済分析』（東洋経済新報社、第28回日経経済図書文化賞受賞）、『ポスト・マネタリズムの金融政策』（日本経済新聞出版社）、『経済の大転換と日本銀行』（岩波書店、第37回石橋湛山賞受賞）、『金利と経済』（ダイヤモンド社）、など。



ご注文は FAX で！ 03 - 3451 - 3124



番線	ご注文部数	発行所：慶應義塾大学出版会	本体予価	部数
新刊委託		30部以上のご注文で、専用パネル(A4)をご提供します！	2,000円	★★★★★ ★★★★★
		翁邦雄 著 移民とAIは日本を変えるか ISBN978-4-7664-2611-3 C0033		
返品条件付注文品		発行所：慶應義塾大学出版会	本体価格	
		玄田有史 編 人手不足なのに なぜ賃金が上がらないのか ISBN978-4-7664-2407-2 C0033		

〈関連既刊〉

★1つで「500部」を表します